



左：東京カトリック神学院の授業の様子 右：神学院聖堂前の聖母子像
【撮影協力：東京カトリック神学院通信部、丹生信雪神学生】

活用されている（出口の整備もしておかないと、司祭朽化した設備の補助などに召命の入口に入ろうとする若い人たちも出てこない）。そして、第一の目的である「大阪教区関係神学生の召命と養成」の現状課題について前田万葉大司教に伺うと、「今の大阪教区には日本人の神学生は1人しかいない」というのが一番の課題です」という返答をいただいた。「えっ、一人ですか？」と思わず聞き返してしまった——これは大変！話し合いの結果、財政的に余力のあるうちに、召命を増やすために新たな施策を

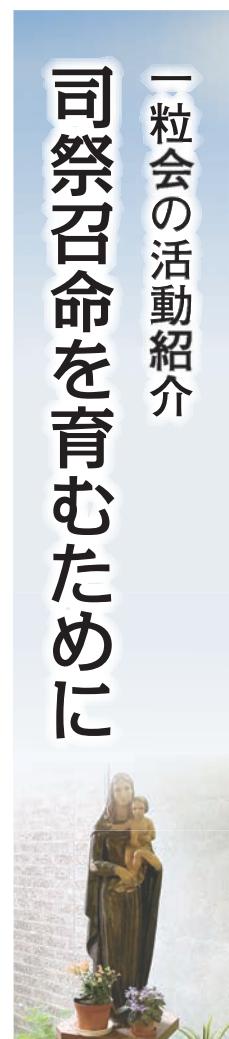


聖堂での祈りの風景

A photograph showing a person from behind, sitting at a wooden desk in what appears to be a study or office. The person is wearing a dark purple sweater over a light-colored collared shirt and a face mask. They are looking down at the desk. In the background, there are large windows with white frames, and a dark filing cabinet is visible against the wall.

司祭召命を育むために

一粒会の活動紹介



実行する必要があるということになり、まず手分けをして、司祭の方々の召命のきつかけについて、ヒアリング（聞き取り調査）を行ふことになった。

紙
「点訳版」「音訳」
あります。（無料）
※ご希望の場合は
下記まで申込み——
「点訳版（原本本）」
時報 ☎ 06-6946-3224(直通)
〔06-6946-3224(直通)〕
「音訳(テープ・ディジタル)」
山口さん ☎ 0798-34-4228

シノドス意見聴取結果
夙川ブロック合同堅信式
司牧者から若者たちに——の一冊
ラジオ「信仰の時間」エリック・
音訳(テープ・ディジタル)
山口さん ☎ 0798-34-4228

☆☆☆☆
新しくなる典礼
生きる—難民移住移動者
バウチスタ・デ・グスマン神父
イエスになりう生き方を求めて
〔3面〕〔2面〕

〔5面〕〔4面〕〔3面〕
時報・原稿・
資料等の締切は
前日未だ

資料1】ヒアリング結果まとめ

——各層に対する具体的施策——

| | |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 司祭 ◀ | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; background-color: #e0f2e0; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>内的生活の充実</p> <p>本人が安心して司祭になれる、親が子を司祭職へと送り出せる環境整備（引退司祭の住居への支援）</p> </div> <div style="width: 45%; background-color: #e0f2e0; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>孤独の解消</p> <p>召命黙想会参加者への一部補助</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; background-color: #e0f2e0; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>青年会・黙想会・鍊成会・茶話会などの定期的な開催と司祭の参画、チューター（個人指導）制度、大自然の中での宿泊青少年会の開催、神学生・新司祭の小教区訪問での講話、子ども・大人食堂、若者の集い</p> </div> <div style="width: 45%; background-color: #e0f2e0; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <p>司祭による聖書研究会の開催、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用したみことばの拡散</p> </div> </div> |
| 神学生 ◀ | |
| 般信徒 ◀ | |
| 未信者 ◀ | |

【資料1】 である。

これら全体に流れる共通の課題は「内的生活の充実」と「孤独の解消」である。

【資料1】 ヒアリング結果まとめ

— 各層に対する具体的施策 —

内的生活の充実

本人が安心して司祭になれる、親が子を司祭職へと送り出せる環境整備（引退司祭の住居への支援）

神学生 ◀

召命默想会参加者への一部補助

1

青年会・黙想会・鍊成会・茶話会などの定期的な開催と司祭の参画、チューター（個人指導）制度、大自然の中での宿泊青少年会の開催、神学生・新司祭の小教区訪問での講話、子ども・大人食堂、若者の集い

未信者 ◀

司祭による聖書研究会の開催、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用したみことばの拡散

もちろん、司祭召命には皆の祈りと犠牲が必要であることが前提だが、その上でこれらの課題に対しても具体的に教会としてしつかりと取り組むことが、司祭力を育むために重要な要素と考えている。

た方々が多くおられた。
一方、「孤独」の問題
1981年に聖マザーテレーザが来日された時に「日本社会には貧困はないが、孤独はある」と語られた言葉にち
あるように、今の日本社会において老若男女・お金のある無しにかかわらず、これは大きな課題として横た
わっている。

2面に続く

使徒職養成委員会 学習会
「カテキズムから読み解く
わたしたちの教会」

7 / 2 (土) 14:00 - 16:00

サクラ ファミリア
講師 酒井俊弘司教

パンデミックや戦争によって翻弄される世界の中で
シノドスの精神(交わり・参加・宣教)を
どう生きていくべきか

申込不要・無料・YouTube配信あり

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス（緩和ケア）
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

〒 562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345

 医療法人ガラシア会



有償ボランティア
事務局員募集

詳しくは
ホームページ
をご覧下さい。

<https://yurikago.site>

理事長 人見 滋樹
(元カトリック医師会会长)

認定NPO法人
こうのとりのゆりかご in 関西

【資料2】「神学生養成基本方針」

(※以下、要約・抜粋)

- ①新しい教会像の構築 ▶外国籍信徒との交わり、新しい言語の習得・海外研修をとおして世界観を広げる
- ②識別を深める ▶現代社会の便利さの中に潜む危険性と、不便さの中にある人間的価値を見極める信仰の目を養う
- ③変わらぬものを求める ▶個人の主觀ではなく、カトリック教会の伝統と教えを通してキリストを解釈し、それに基づいて行動することであり、教会を次世代に紡ぐことが、今の私たちの世代の責務であろう。
- ④福音的芽生えを育てる ▶新たに生まれる小さな祈りや活動のグループなどの福音的芽生えに気づき、それを育てる感覚を養う
- ⑤創造的姿勢 ▶困難の中に信仰的意味と価値を見出し、それを成長のステップと連帶の機会としていけるよう学び続ける

【資料3】「司祭召命を育むための実施項目」

- ①神学生・新司祭の小教区訪問での講話
- ②青年会・黙想会・鍊成会・茶話会などの定期的な開催と司祭の参画
- ③互いの孤独解消のための地域における包摂的な場の開設
- ④司祭による聖書勉強会の開催
- ⑤SNSを活用したみことばの拡散
- ⑥召命黙想会参加者への一部補助
- ⑦本人が安心して司祭になれる、親が安心して子を司祭職に送り出せる環境整備

以上のヒアリングの結果に基づき、大阪教区で「神学生養成基本方針」が取りまとめられた【資料2】。また、これに沿って具体的な実施項目として整理したものが「司祭召命を育むための実施項目」である【資料3】。これらは、3月16日の司祭評議会で正式に承認された。

一粒会からのメッセージ

司祭の召命は我々の世代だけでなく、子どもや孫の世代にとって非常に大切なことであり、教会を次世代に紡ぐことが、今の私たちの世代の責務であろう。

（一粒会委員長 横江友則）

そして、その成果を大阪教区全体で共有し、毎年検証を繰り返して、一人でも多くの司祭召命が増えることを願っている。



神学院の食事の風景

>>> 神学院の皆様、ご協力ありがとうございました！<<<

夙川ブロック合同堅信式

どんなに小さな声でも

4月24日(日)14時、芦屋教会で夙川ブロック(芦屋・夙川・甲子園)の合同堅信式が行われた。17人の受堅者、その家族と代父母を含む98人の参列者がこの日を祝った。

今年もコロナ禍中での開催となり、感染対策をしながらの式となつた。主司式は、芦屋教会出身の酒井俊輔司教。共同司式は堀裕明神父(芦屋)、李昇川神父(夙川)、ラモン・ロペス神父(オプス・ディイ)。コロナ禍のためにしばらく聖歌を歌えなかつたが、この日は会衆皆で歌うことでき、受堅者のために心を一つにできた喜びの感謝の祭儀となつた。

酒井司教はミサ説教の中で次のように述べた。「堅信を受けても、特に目に見える変化はありません。しかし、目には見えなくても

【一粒会献金振込先】
郵便振替 00970
-8-308001
加入者名 大阪大司教区
(※一粒会専用の口座)

個人による回答を小教区でまとめて送つたり、または個人が直接回答を送つたりしたケースが大半であった。そのなかでコロナ禍にもかかわらず、分かれ合いをして、そのままとめを送付してくれた小教区があつた。

教会が未来に向けて変わっていくことを望む声が

来年2023年、バチカンで行われるシノドス(世界代表司教会議)。事前に地方教会の現状を調査するため、昨年各教区に質問票が送付された。これに各小教区で「分かち合いで回答すること」こと自体が、今回のシノドスのテーマであり、「宣教」の精神を表す。大阪教区はこの過程を「教区準シノドス」として実施を進めてきた。回答全文は【別紙】参照。回答集計にたずさわったシノドス担当チー



大阪教区

シノドス意見聴取結果

受堅者の感想

◆「神様と近くなることができる、とてもうれしかった。」

(芦屋教会 堅信式実行委員会・広報委員会)

◆「「動く教会」として、神様との対話を深め、周りの人間に信仰を広げていくことができ、受堅者のために心を合わせて進んでいきたい。」

◆「洗礼・堅信でお世話になりました。私も次の方のお手伝いができるよう頑張ります」。(社会人)



雨が止んだつかの間、聖堂前の大階段で記念撮影

一方、「昔はよかつた」

ある一方、「昔はよかつた」的な感想もみられた。30代の人们たちが10人くらい集まって、前向きな提案をしてくださった返答は、読んでいて励まされた。

「久しぶりに親しい人たちと分かち合いました。直接受けに分かち合うことの素晴らしさは格別でした」という回答もあり、分かち合いの意義をあらためて感じさせられた。

特に印象に残った回答

▼「どこも信徒は女性のほうが多いが、会議よりも具体的な奉仕などの活動を好み傾向があった。そうした活動によって親しくなり、ともに歩む実感が得られるようである。開かれた「参加型」の活動が増えてほしい。」

▼「教会から離れてしまつている知り合いがいる」

「ともに歩む」教会に向けて教区・地区レベルでの集いを積み重ねていくといふのではないか。あらゆる活動をこの観点から見直していくことはとても有意義で実質的だと思う。今後数年にわたつて「ともに歩む」教会への刷新を継続していくことへ向けて、丁寧な対策が必要との指摘があつた。信徒がチームを組んで集いを行うことが大切だと以前から指摘されてきたが、実際にはあまり進んでいない現状が見ええた。

今後によせる期待

「ともに歩む」教会に向けて教区・地区レベルでの集いを積み重ねていくといふのではないか。あらゆる活動をこの観点から見直していくことはとても有意義で実質的だと思う。今後数年にわたつて「ともに歩む」教会への刷新を継続していくことへ向けて、丁寧な対策が必要との指摘があつた。信徒がチームを組んで集いを行うことが大切だと以前から指摘されてきたが、実際にはあまり進んでいない現状が見ええた。



大阪教区 シノドス意見聴取のまとめ【別紙】

2023年に行われるバチカンでのシノドス（世界代表司教會議）の準備調査として、各教区に送られた意見聴取の質問票（4月末最終締め切り）。大阪教区ではシノドス担当チームが回答を集計し、担当司祭であるヌノ・デ・リマ神父が5月18日の司祭評議会で報告、承認を得た。このまとめは司教協議会に送られ、全国16教区から提出された回答とともに、日本語のまま教皇庁シノドス事務局に提出される。また、7月の臨時司教総会において日本の教会としての回答をまとめ、それを教皇庁に提出することになっている。以下、全文を掲載する。

A. はじめに

質問票への回答は約330件になりました。これは、小教区の評議会などからのもの、個人からのもの、修道会からのものを合計した数です。協力していただいた皆様に、ありがとうございましたとお礼をお伝えします。本来ならば分かち合いをしていただきたかったのですが、集いを開いてその内容を回答していただいた事例は少なかったようです。ただ、分かち合いをして報告していただいた小教区では実り多い機会と報告されています。

男性と女性の回答の比率は女性が約7割でした。年代別では60～70代が多く、全体の7割くらいを占め、30～40代の人からの回答は少なかったです。それぞれの質問に対して回答をたくさん書かれた方もおられましたが、その反面、質問の内容を難しく感じられた方も少なからずおられました。

回答の傾向としては、似た内容や方向性の回答が多く見られ、いずれも教皇フランシスコが望んでおられる「ともに歩む教会」の再構築に向かうものであったと言えます。世界中の教区でシノドス（世界代表司教會議）の準備として現状を振り返り、その積み重ねで来年のバチカンでの会議につなげていくという大規模な取り組みは、今まで経験したことのない画期的なものでした。

シノドス事務局から提示された10項目の質問は、教会においてどのくらい「ともに歩む」ことができているのかを振り返り、今後さらに前に向かうための糸口を探るように構成されています。質問項目自体が教会本来のあり方を実現することを目指しています。

質問は大きく3つに分けられます。最初の1～4項目は、「ともに歩む」できることを問い合わせ直します。5～7項目は、「どこまで教会が開かれた関わりができたのか」を振り返り、8～10項目は、「教会がさらに本来の姿を実現することができるか」を提起しています。現実を振り返り、広がりを求める視点を受け止め、教会が教会であるための欠かせない要素を探求して実現するように促しています。

では、質問項目ごとに報告された特徴的な内容を紹介します。

B. 質問項目ごとの主な意見

番号後の文章は、シノドス担当チームのまとめです。その後の「●」は個別の意見から印象的なものを書き加えています。

1. ともに歩むことに関して

深い出会いの体験、分かち合いの大切さ、出会うことが可能な場の存在、開かれた関わりの存在などが多く指摘されていました。信徒養成での新しい視点、活動を共にすることでの支え合いなどの指摘もありました。

その一方で、主任司祭と信徒の断絶、司祭の権限としてすべてのことに決定権を行使する現実などを嘆く声もありました。

- 教会を去ってしまった人の痛みは私たちの痛み。
- 教会から離れている人の意見はここにはない。初めて来た人に対して淡泊ではないか。
- 小教区内の組織の再編が必要。昔ながらの壮年会、婦人会などを改変した小教区もある。
- コロナ禍の厳しい状況においては、病者などに電話をすること、手紙・教会だよりを郵送するなど、何らかの形で届けるとよいのではないか。

2. 交わりの現実について

個人的努力として、自分から声をかけるようにしている人たちがおられます。奉仕的な活動など、信徒同士のつながりがある人は仲間がい



ともに歩む教会のため
交わり | 参加 | 宣教

るのに対し、特に活動していない場合はつながりの機会が得にくいようです。まずは、挨拶し合う雰囲気が根付くように意識的に励むことが大切なようです。

- 元気で健康な人たちの声ばかりが目立っている。
- 10の質問の点字訳は作成できなかった。外国語訳も日本に来られている各国語の人びとにお聞きしたかったのですが、一部の国にとどまつた。外国人とのコミュニケーションが十分にとれない難しさを実感。
- 小教区の中に気楽に声をかけられる相手が2～3人いるとよい。典礼などの奉仕活動をきっかけにしたり、洗礼の代父母にも橋渡しをしてもらったりする。

3. 発信することについて

地域社会の活動に参加している個人はかなりおられるようですが、小教区としてはあまり地域との関係づくりをしていないところが多そうです。地域とのかかわりの必要性に気づいていなかったようです。今後の課題です。

- 職場とは違う地域的なつながり。教会を地域に開放してはどうか。教会が地域の子どもたちに自習室を提供するなど。
- 子ども食堂の開設。フードロスを防ぎ、援助が必要な家庭に食料品を配布する奉仕を引き受ける。
- 地域で活動している人を支える仕組み。個人の活動を教会として支える。
- 小教区共同体の枠を外して考えることが必要。社会の状況、その必要性に合わせて、出来ることを考え積極的に市や町、地域住民のニーズに応える行動力を発揮できないか。

4. 典礼の実際

一部の人たちがずっと担当している小教区が多いようです。役割が固定化しないように、任期制を採用する提案がありました。奉仕職が信徒の序列のようになっている弊害の指摘もあります。わかりやすい交代の仕組みがあるとよいのでしょうか。

- 奉仕者が不満に思わないような配慮を講じた仕組み作り。クリスマスや聖なる三日間の典礼など、大きな意義を持つ典礼では経験豊かな人を優先的に奉仕者に充てて、普段から奉仕している人が経験する機会を持てない小教区がある。
- 任期制の導入。3年やったら3年お休みなど、交代する仕組みが必要では。
- 典礼参加者が神様との出会いに招かれていくように、典礼奉仕ができる貢献について探求することが大切では。
- 教皇様が来日の折に、司祭の説教について言及されたようですが、心に届く説教をしていただきたい。眠くならないものを。
- ミサの15分前に着席し、1週間を振り返り、反省を次週につなげるよう、また世界のニュースを思い起こしながら開祭までを過ごすことが大切。
- 大阪教区の新生計画で実施されていた「若い人のミサ・キャラバン（若い人が参加しやすいミサをあちこちで行う）」を実施してはどうか？

【裏面に続く】

For a synodal Church — communion | participation | mission

5. 宣教活動について

信徒が入門講座を担当していることもあるようですが、信徒の役割がもっと盛んになっていくことを望む声があります。司祭・修道者にお任せしてきた伝統から、信徒も一緒になって入門講座を行っていくようになっていくことが方向性でしょうし、信徒のチーム育成が大切でしょう。

- 「講座」という学習の場であるような名称を改めるべきでは。キリスト／聖書を学ぶ会とか聖書にふれる会など。
- 「教会」という名前も適切なのか？ 神様の教えより生き方。信じる喜びを分かち合うことを大ににして、名前の言い換えを考えはどうか。
- 勉強ではなく生活を振り返る分かち合いを中心とする。洗礼準備講座とは別に、キリスト教を学ぶという入り口になる集いを開いてはどうか。教会以外の場を使って聖書を伝える講座を開いてはどうか。
- 信徒を養成（学習も靈性も）しながら、信徒使徒職をさらに内実のあるものにしていく必要を感じる。
- 「出向いていく教会」のありかたを模索する。

6. 対話する教会のあり方

地域との関係を大切にしてきた小教区もあれば、あまり意識してこなかった小教区もあるようです。

- 信者一人ひとりの実践している活動は教会から派遣されていると受け止める共通認識を持つことが大切ではないか。
- 各人には、その人でないとできないことがある（固有の召命）。職場におけるミッション、社会的靈性など。
- 社会活動は政治と結びついている。教皇の社会教説がそのことを訴えている。政治を忌避せずに、教皇の指摘をもっと真摯に受け止めるように。

7. 他のキリスト教宗派とのつながり

朝祷会、エキュメニカルの集い、市民クリスマスなどの体験のすばらしさを語る人たちがいる一方で、エキュメニカル関連の活動を経験していない人たちも多いようです。ただ、個人的にプロテスタントの友人がいる人は多そうです。

- 主任司祭の否定的な姿勢のため、長年続けていた市民クリスマスが終了してしまった。
- プロテスタントの人と一緒に祈る集いは大切。
- エキュメニカルについての理解を深める機会をつくること。

8. 参加型、共同責任型の教会に向けて

役職が一部の人たちに偏っていることへの不満があちこちから表明されています。役割の交代の仕組みをどのように規約で定めるかが課題となっている小教区があります。また、小教区評議会の議題を事前に発表して広く皆さんの意見を受け付けるなど、風通しの良い小教区運営が望されます。このシノドスのための準備のように、多くの人たちが意見や思いを表明し、分かち合う習慣がほしいです。

- 任期制を取り入れているところはある程度ある。問題は人材確保。信徒数の少ない教会は特に難しい。
- ブロックの中で違う小教区と行き来する。ミサ後に交流する場を持つ。
- 分かち合いの質。意見交換ではなく、ありのままの気持ちを分かち合うことが分かち合いであるという認識が大切。信徒同士の交わりは喜びであるという実感が教会を豊かにしていく。
- 信徒が前面に出なければ教会は発展しない。

9. 靈的な識別について

聖霊の導きを共同体として選び取っていくことが大切でしょう。シノドスのための準備で「セブンステップ（分かち合いのプログラム）」を使ったように、みことばに触れて、祈りをともにささげて、信仰的なセンスで共同で決定していく仕組みが求められています。簡単ではありませんが、このポイントが入ってくると、雰囲気が変わっていくでしょう。

- 聖霊の導きをすごく特別なこととしてとらえられてしまっているようを感じる。どれだけ普段のレベルに根付かせるか。
- 「識別する教会になるように」との教区からの要望に、識別の意味を「根回し」と理解している人もいるらしい。「識別とは何か」を司祭も信徒も共に学ぶ必要を感じる。
- 司祭・修道者・信徒が同じテーブルに着き意見を交わすことの重要性は、福音宣教推進全国会議（以下 NICE、1987・93 年開催）が目指した福音宣教の優先課題「開かれた教会」のことである。声の大きい人に合わせて忖度するようなことがないように、一人ひとりのありのままの意見、考えを引き出せるような環境づくりが必要。

10. シノドス的な成長に向けて

NICE や大阪教区の新生計画では、多くの養成コースや研修会がありました。そこで重視されていた「分かち合い」がこの頃少ないので指摘があり、ともに歩む実感として、分かち合う機会を大切にしていくことが提案されています。今回のシノドスのための準備をきっかけにして、「シノドス運動」を活発化することが望まれています。教区としての組織的推進が必要かもしれません。

「信仰と生活の遊離」が今もってあり、「シノドス的な成長」・「共に歩むこと」と言っても、どのように歩めばいいのかわからないとの質問が寄せられていました。

- 「セブンステップ」の有効性を多くの人たちに体験してもらう。改めて、そのための体験的な研修会を実施する。
- 「識別」「シノダリティ」とは、「イエスならどうするか」を判断することだとわかってほしい。

その他

- 信徒・司祭の養成の必要性を感じる。教皇文書などをよりわかりやすくかみ砕いて丁寧に説明する機関や機会があればいい。
- お互いに共通理解し合い、歩み寄る場が大切だが、難しい。地道に分かち合いを続けていくことが大切。
- 司祭の態度によって、その小教区の雰囲気が変わる。信仰は「教義によってではなく、神父との出会いによって福音が広がる」と言われている。日本語が拙くても、人となりによって伝わるものはあると思う。
- 外国人、いろいろな障がいを抱える人たち、困難さを抱えている人たちが互いに出会い、祈り、歩めるように工夫すること。何が必要で何を希望しているか話し合う機会を持つことだと思う。
- 大阪教区では阪神淡路大震災の後、『新生の明日を求めて（1998年）』という冊子を作った。こうした努力を続けて欲しい。

C. 今後に向けて

「ともに歩む」ことができているのかを振り返るせっかくの機会でしたが、コロナ禍もあって分かち合いの場を十分に作り切れなかつたことを考えると、今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの場で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業（分かち合い、靈的識別の探求）を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望られます。

今回のシノドスのための準備をさらに充実させて発展させるような、教区からの働きかけが必要だと思います。地区や小教区も積極的に創意工夫していくことが期待されます。

来年のシノドスの会議の後で、その1年後くらいに教皇が使徒的勧告を出されます。その文書を熟読する機会をつくるとともにその使徒的勧告をテーマにした分かち合いを進め、シノドスである教会実現に向けてともに歩みたいと思います。

シノドス担当チーム
【2022年5月18日（水）司祭評議会承認】

Synod
2021
2023

新しいミサの式次第と奉獻文について

2022年4月4日
大司教 前田万葉

今年の待降節第1主日(11月27日)より適用されます新しいミサ式次第と奉獻文について、各小教区・共同体などで今後周知・練習などが行われていくことと思います。この式次第と奉獻文の中には選択可能な箇所が多くありますが、選択肢の中からどれを選択するかは、典礼暦やそれぞれの状況に合わせて、現場の責任者が判断してください。

しかしながら、教区や地区・ブロックなど小教区や共同体を越えて行われるミサにおいては、会衆の応答において混乱することがあります。そのような事態を避けるために、教区ミサにおいては、会衆が答える部分を伴う選択に関しては、原則として以下の通りとすることをお知らせしておきますので、ご了解ください。(数字は『新しい「ミサの式次第と第一～第四奉獻文」の変更箇所』<2021年10月20日カトリック中央協議会発行>の該当ページ)。

- ▶ **回心の祈り**: 第一形式(18-19)、会衆「アーメン」。
- ▶ **いつくしみの賛歌(キリエ)**: 第一形式(24)、会衆「主よ、いつくしみをわたしたちに」……。
- ▶ **信仰宣言(29-31)**: 四旬節と復活節中は使徒信条、それ以外はニケア・コンスタンチノープル信条。
- ▶ **奉獻文中「信仰の神秘」への應唱(43、50、56、64)**: 会衆「主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで」。
- ▶ **拝領前の信仰告白(71)**: 会衆「主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。おことばをいただくだけで救われます」。
- ▶ **司教が司式するミサでの派遣の祝福(74)**: 司教「主は皆さんとともに」。
会衆「またあなたとともに」。
司教「主のみ名がいつもたたえられますように」。
会衆「いまよりとこしえに」。
司教「主のみ名はわたしたちの助け」。
会衆「主は天地の造り主」。
司教「全能の神……」。
会衆「アーメン」。



「信仰の時間」

ABC ラジオ(朝日放送)

毎週日曜日 5:50~6:00AM

4月担当: エリック・パウチスタ・デ・
グスマン 神父(梅田ブロック)

主の復活 (17日放送分より)

——「なぜ、生きておられる方を死者の中に搜すのか。の方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」。(ルカによる福音24章1節~12節参照)

皆さん、今日は主のご復活おめでとうございます! 「復活」は英語で「イースター」といいます。教会では、この日に「イースター・エッグ(復活の卵)」が良く配られます。イースター・エッグは、墓の中から出てきた、復活したイエスのイメージを表します。皆さんはイースター・エッグを誰かにもらったことはありますか?

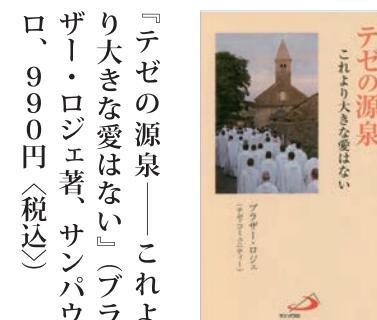
さて、先週は聖週間で「受難の主日」から始まり、イエスの受難と死を思い起こす一週間でした。

イエスはわたしたちの救いのために十字架上で自分のいのちをささげてくださいました。イエスのお母さんであるマリアと、イエスの仲間たちとイエスのことを信じていた人びとにとて、イエスの死はとても悲しい出来事でした。

しかし、イエスのストーリーは、イエスの死で終わりません。イエスは金曜日のあの日に亡くなり、お墓に葬られましたが、三日目に死者の中から復活されました。その三日目の日は、日曜日の今日、「主の復活の日」と呼ばれています。わたしたちのためにいのちをささげてくださったイエスは、再び生きるようになりました。今も生きておられます。イエスの復活の出来事は、それを目撃した人び

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、サンパウロ大阪宣教センターのブラザーア部真理(聖パウロ修道会)が担当。

この本の著者、河野進さんは「岡山の良寛さん」といわれた素晴らしい牧師さんです。30年以上も前に、彼の本に出会いました。彼は何冊か詩集を出していたのです。が『ぞうきん』はその一冊(中古本)で、当時すでに絶版になっていた本でした。何冊かを読み、心がすつきりし、心があたたかくなつたのを覚えています。



次回は、シスター戸村晴美(師イエズス修道女会)のみはや教会担当です。私は大切にして、皆さんにお薦めしている本です。

とが語って、証明してくださいました。今日読まれた福音のとおりです。

イエスの復活は、わたしたち人間にとて、大きな喜びです。わたしたちに希望を与えてくれる出来事です。今まで、死と死ぬことを恐れていた人間は、人が死んでも、再び生きることができます。イエスを信じた人びとは皆、終わりの日に、イエスと同じように復活できます。このことに希望をおき、復活に日々を向けて過ごすことができます。わたしたちに、神様を愛し、隣人を自分のように愛することを教えてくださったイエスのことを信じることができます。

カトリック教会では、イエスの復活をお祝いするために、盛大な式を毎年行っています。「復活の徹夜祭」とは、聖週間の土曜日、聖土曜日の夜に行うミサのことです。このミサの中で、火とろうそくと水の祝福をします。祝福された火から、ろうそくを灯すのには、「罪と死に包まれていた世界は、眞の光であるイエス・キリストに照らされた」という意味があります。

『ぞうきん』(河野進著)
幻冬舎、943円(税込)



神さまの心、思いを、そつと手のひらで包んだような詩集です。

シスター渡辺和子さんの大切な友人であり、彼女がぜひ再版をと呼びかけ、再版されました。今は私のお

薦めのベスト3に入りました。疲れた時に、ぜひ一ページ読んでみてください。どんな栄養剤よりも効果があること間違いなしです。

ています。

この本には、宗教を越えたこの祈りの集いの創始者

であるブラザー・ロジエの

精神と、その集いで歌われ

る歌を支えている言葉の

数々が並べられています。

私たちの生活の精神的な

支えとなり、静けさの中で

語られる言葉の数々に、ぜ

ひ出会つてください。短い

フレーズに、光を見出して

いただければ嬉しいです。

私も大切にして、皆さんに

お薦めしている本です。

水はこの復活徹夜祭のミサの中で洗礼を受ける人びとの頭に注がれるために祝福します。水には、いのちを与えるイメージとともに、けがれを洗い清めるイメージもあり、古代から洗礼のしになつてきました。

わたしたちを救うために、十字架につけられて、いのちをささげてくださったイエスは再び生きており、これを信じる人びとは洗礼を受けます。洗礼を受けて、神の子どもたちとなり、イエス・キリストを信じる「キリスト者」「カトリック信者」となります。洗礼を受けた教会の共同体の一員になります。

イエスの復活は、まことに喜び——希望・新らしいのちを与える、喜びの日です。このことを毎週、日曜日に「感謝の祭儀」というミサの中で思い起こし、ともにお祝いしているのです。



ウクライナ危機人道支援と祈りのお願い

ウクライナの現状は皆様も報道によってご存じのことだと思います。多くの方が近隣諸国へ避難をして苦しい生活を余儀なくされています。大阪教区としては、皆様に昨年ご協力いただいた「すべてのいのちを守るための基金」から、カリタスジャパンの「ウクライナ危機人道支援」に寄付金を送金することにいたしました。個人として協力を望まれる場合は、各自でカリタスジャパンの「ウクライナ危機人道支援」の方へご協力をお願いいたします。ロシアとウクライナの平和のために祈っていきたいと思います。

【募金受付口座】

郵便振替：00170-5-95979
加入者名：宗教法人大トリック中央協議会 カリタスジャパン
*記入欄に「ウクライナ危機支援」と明記

クレジットカード募金やインターネットサービスでの振込案内▶
<https://www.caritas.jp/2022/03/04/4997/>



新しくなる典礼③「ミサ」が変わってしまうの?

『新しい「ミサの式次第と奉獻文」の変更箇所』

～2022年11月27日(待降節第I主日)からの実施に向けて～



「ミサ」が変わるということではなく、「ミサの式次第と奉獻文」の表現が変わるところがあるということがわかりましたね。式次第に沿って、今回は「ミサの賛歌」について確認しましょう。「ミサの賛歌」は、原則として口語で唱えることになりました。表題には、ラテン語版の表題が加えられます。

1. 「いつくしみの賛歌」(キリエ)

「あわれみの賛歌」という名前から変更になりました。いつくしみに満ちた主をほめたたえるという意味から、「あわれみ」は「いつくしみ」に変更されました。会衆のことばに加えられた「わたしたちに」ということばは、主に対する嘆願が表されています。

(一)

先唱：主よ、いつくしみを。会衆：主よ、いつくしみをわたしたちに。
先唱：キリスト、いつくしみを。会衆：キリスト、いつくしみをわたしたちに。
先唱：主よ、いつくしみを。会衆：主よ、いつくしみをわたしたちに。

(二)

先唱：キリエ、エレイソン。会衆：キリエ、エレイソン。
先唱：クリステ、エレイソン。会衆：クリステ、エレイソン。
先唱：キリエ、エレイソン。会衆：キリエ、エレイソン。

*歌う場合は、これまでの文語によるミサの賛歌の旋律(『典礼聖歌』に掲載)を当面使用することができます。

2. 栄光の賛歌(グロリア)

聖書朗読などでは「御子」は「おんこ」と読むように統一されていますが、栄光の賛歌では「みこ」の読みを残しました。

天には神に栄光、地にはみ心にかなう人に平和。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

わたしたちは主をほめ、主をたたえ、

主を拝み、主をあがめ、

主の大いなる栄光のゆえに感謝をささげます。

主なる御ひとり子イエス・キリストよ、

神なる主、神の小羊、父のみ子よ、

世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く主よ、わたしたちの願いを聞き入れてください。

父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。

ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、

イエス・キリストよ、

聖靈とともに父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

(文・絵 大阪教区典礼委員会)



墓地・納骨所に関するお知らせ

事務局長 崔周永

神戸地区共同納骨所(舞子)の一時受付停止のお知らせ

神戸地区共同納骨所(舞子)の受付を本年4月1日より、一時停止しています。祭壇下の納骨室が満杯近くになったためです。

現在、共同納骨所(舞子)を全面的に改修し、納骨出来る数を大幅に増やす検討を進めております。なるべく早い建立を目指して進めてまいりますが、受付再開までお待ちいただくようにお願いいたします。なお、生前予約が完了されていて、納骨を希望される方は管理課までご連絡をお願いいたします。

カトリックでは帰天から納骨までの期間に決まりはなく、通常はご遺族様が希望された時に納骨されます。しばらくの間、共同納骨所(舞子)では受付できませんが、ご理解いただき、ご協力賜りますようお願いいたします。

大阪カトリック墓地・納骨所(阿倍野) 使用料・プレート貼付変更

大阪カトリック墓地納骨所(大阪市設南靈園内)は2022年4月より下記のとおり変更となりました。同納骨所の墓碑刻銘が可能なスペースが残り少くなり、少しでも多くの信徒の方々にご使用いただくため、プレート貼付へ変更となりました。ご理解、賜りますようお願い申し上げます。

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 使用料(ご納骨のみ) | 50,000円(被収蔵者1名につき)非課税 |
| 2. プレート作成・貼付(希望者のみ) | 11,000円(被収蔵者1名につき)税込 |
| 3. メモリアルタブレット作成・送料(希望者のみ) | 11,000円(被収蔵者1名につき)税込 |

詳細はご案内の郵送希望のご連絡をいただくか、または墓地・納骨所のホームページをご確認ください(教区サイト上にバナーあり)。
教区本部事務局 管理課 (☎06-6941-9705直通)
<https://www.osaka.catholic.jp/cemeteries/>



「カテキズムの学び」は今月号はお休みにします(4月の講座中止のため)

大阪と関東の教会のコラボで難民支援をやりませんか
去年タリバンによって全土を掌握されたアフガニスタンは、たちまち深刻な人道危機に陥りました。少数民族の女性で軍医だった口腔癌患者は、格好の迫害の標的となり、一家は国外へ脱出しました。私たちは埼玉に住むロキアさんの姉から相談を受けて以来、ロキアさん一家を救出すべく努力をし、半年かけてやつと条件にしなければ受け入れたができました。ロキアさん一家は難民として保護されるべき人たちの在留資格を得ることをアさん一家を救出したこと、ロキアさんをシナピスで雇う形を取つてビザを得ました。ロキアさんの人件費はシナピスの寄付金から出すことになりましたが、果たしてどんな仕事ができるのでしょうか。

婦人科に女医がないので、日本に持ち込むため、特に女性をめぐる問題がたくさんあるようです。産婦人科に夫が病院で出産を拒んだり、家庭内暴力が一番です。日本在住のア

スタンの因習をそのままつけて話です。すると東京のオープンハウス(各教区の難民移住者支援組織)の人たちがすぐに動き、ロキアさん一家の住まいや職場環境作りに乗り出してくれました。

難民は「お荷物」ではなく、日本の社会も教会も豊かにする人材だと、と私たちが学ぶ機会が訪れたことを私は嬉しく思っています。シナピスカルド篠子



生きる難民移住者

大阪と関東の教会のコラボで難民支援をやりませんか
去年タリバンによって全土を掌握されたアフガニスタンは、たちまち深刻な人道危機に陥りました。少数民族の女性で軍医だった口腔癌患者は、格好の迫害の標的となり、一家は国外へ脱出しました。私たちは埼玉に住むロキアさんの姉から相談を受けて以来、ロキアさん一家を救出すべく努力をし、半年かけてやつと条件にしなければ受け入れたができました。ロキアさん一家は難民として保護されるべき人たちの在留資格を得ることをアさん一家を救出したこと、ロキアさんをシナピスで雇う形を取つてビザを得ました。ロキアさんの人件費はシナピスの寄付金から出すことになりましたが、果たしてどんな仕事ができるのでしょうか。

婦人科に女医がないので、日本に持ち込むため、特に女性をめぐる問題がたくさんあるようです。産婦人科に夫が病院で出産を拒んだり、家庭内暴力が一番です。日本在住のア

スタンの因習をそのままつけて話です。すると東京のオープンハウス(各教区の難民移住者支援組織)の人たちがすぐに動き、ロキアさん一家の住まいや職場環境作りに乗り出してくれました。

難民は「お荷物」ではなく、日本の社会も教会も豊かにする人材だと、と私たちが学ぶ機会が訪れたことを私は嬉しく思っています。シナピスカルド篠子

</div

